

拡大マップ1



0m 500m 1,000m



鉾子の伝説 義経伝説

兄の源頼朝に追われて鉾子へ逃げのびてきた源義経は愛犬の若丸を連れていました。ところが若丸が呪いにかかってしまい、これ以上一緒に連れて行けなくなり置いていくしかありませんでした。

ひとりぼっちになってしまった若丸は、主君の義経を思つて七日七晩鳴き続けますが、ついに八日目の朝には大きな岩になってしまいました。若丸の鳴く声ははるか遠くまで響きわたり、犬吠埼まで届いたそうです。犬吠埼の名前の由来のひとつとされています(※諸説あり)。また、犬岩のある帯は犬若と呼ばれ現在も地名が残っています。

このほか鉾子市内には、義経が千騎の兵と立てこもつた千騎ヶ岩せんがいわや馬を休めた馬糞(ばふん)、武器を隠しマムシに守らせたむすたん山、古澤浦(こもうら)、宝満(ほうまん)、矢立ての浜、君ヶ浜、橋のない海上川で竹を曲げて渡つたという笹巻橋(ささまきはし)など義経伝説ゆかりの場所がたくさんあります。

鉾子の伝説 猿田彦と椿の海

昔、猿田彦がこの辺りに椿の苗木を植えるつもりでみるうちに枝が空を覆いつくほどの大きさに成長しました。やがてこの椿の巨木に鬼満国(おにみつくに)という鬼の魔王が住みついて、周囲の村人に悪事を働きました。それを聞いた猿田彦は天の鹿兒弓(かこゆみ)を張り天の羽々矢(はばや)を魔王のへんめがけて射りました。魔王の体はみるみる風船のように大きくふくらみました。魔王は怒りにまかせて椿の巨木を引っかくて倒してしまいました。そこで猿田彦が魔王のへんに刺さつた矢を引き抜くと、ふくらんでいた魔王の体から空気が抜けてはるか彼方へ飛んでいってしまいました。倒れた椿の巨木の跡に水がたまり「椿の海」という湖ができました。その後倒れた椿の根の方を下総(しもさへ)とよび、幹が倒れた方を上総と呼ぶようになりました。椿の海はやがて村人の手によって干拓されて「干潟八万石」という広大な米どころになりました。